

新型コロナウイルス感染症対策について、その情報や基本方針など、速やかに職員へ周知することに努めてきた。

同時に、物品の準備及び対応の徹底を呼び掛けてきた。現在においても感染発症には至っていない。

(1) 利用者及び職員の健康管理

<p>■ 健康管理について (入居者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 健康診断1回目 令和2年7月27日 41名中40名受診(1名入院加療中)内、有所見者31名。 ➢ 要精密検査を指摘され、緊急を要するような検査結果は1ケースあった。後日精密検査目的にて受診している。 ➢ 入居者のインフルエンザ罹患者はゼロであった。1年を通して面会についての制限を行い、状態不良や終末期においても人数制限や居住地の確認、検温を含む問診などを行うことで徹底できた。
<p>■ 職員の体調管理について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 手洗い、消毒、咳エチケットの徹底をするために、職員通用口に物品を準備。検温もできるようにした。 ➢ 新型コロナウイルス感染症を意識した自身の体調管理の徹底。 ➢ 介護職員の平均年齢も高く、柔軟性と筋力の低下が目立ち、体調不良を訴える職員が目立っていた。 ➢ 職員のインフルエンザ罹患者はゼロであった。 ➢ 腰痛対策については、予防法と介護技術の修得及び、福祉用具の購入(個人購入も含め)腰部にかかる負担軽減に努めた。
<p>■ 健康診断について (職員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 検診率100% (年2回) 施設外での健診を受けた職員については結果の写しを医務室管理とした。 ➢ 職員の数名については何らかの慢性疾患があり、内服薬の処方を受けている。他、それぞれ指摘された事項について相談と病院受診の必要性を説き、対応している。 ➢ 腰痛問診(年2回)については、産業医より『総合的に問題なし』という診断にとどまった。
<p>■ 健康教育について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自身の体調管理については個別に相談を受けるなど、健康に関する関心を高めてもらえるよう努めた。 ➢ 配信される研修会にほとんどの職員が参加。感染症に対する意識・関心が高まったといえる。
<p>■ 受診について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 救急車搬送は2件、介護と看護間の連携と情報を共有することで、比較的速やかな対応ができた。(手遅れという状態は避けられた) ➢ 入居者の骨折という事故があった。高齢というだけでもリスクである。動きを制しない介護所以の結果であり、家族の対応についても問題なく経過した。 ➢ 重症度の高いご利用者についても主治医の指示の下、家族への連絡を密にするなど信頼関係を築くことができた。 ➢ 診療については、いいたてクリニックから毎週火曜日に回診と定時薬の処方を受けていた。慢性疾患のみならず、臨時薬や点滴の処方もあり、施設内で寛解できたことは何よりであった。

(2) 褥瘡対策

<p>■ 皮膚トラブルの予防</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 早期発見の重要性を周知する。また、速やかな報告が重度化を防ぐことに繋がることも付け加え指示できた。 ➢ 皮膚トラブルがもたらす2次的疾患の特性については、各家会議に参加することで知識を広めることができた。 ➢ 皮膚の状態を健やかにするため、セラミド入り乳液である『キュレル』及び皮膚の状態に合わせベビーオイルまたはアズノール軟膏を個別購入し対応した。 ➢ ムートン・ロンボクッションをはじめとする体圧分散用具の導入をしてきたことで終末期に於いても褥瘡はゼロであった。 ➢ 栄養の大事さ、経口摂取がもたらす効果については適宜ケア会議などで話し合い、関心を深めていった。 ➢ 皮下出血しやすい薬を処方されているか否かについて周知し、皮膚に与える影響についても指示できた。 ➢ 看護師間で検討、保護剤や被覆材の選択について互いの情報を共有するにとどまった。次年度は開催される勉強会などに積極的に取り組んでいきたい。
--------------------	--

(3) 終末期ケア

<p>■ 看取りについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「慣れ親しんだホームで最期を」と希望する入居者や家族が多く、5名の方が施設（自分の居室）で永眠され、病院に移ってから亡くなられた方は2名であった。 ➢ 終末期を考慮し、事務・厨房・介護・看護の全スタッフで関わる事ができた。 ➢ かかりつけ医であるあづま脳神経外科病院には、毎週火曜日の定期診療に加え、深夜早朝にもかかわらず対応していただき、最期の確認と家族への説明をして頂いた。
------------------	---

【入院状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
あづま脳外	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	1	8
延日数	23	1	0	7	28	14	2	0	0	0	9	1	85

【通院状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大町病院			1							1			2
わたり病院													
あづま脳神経	1		2	4				1		1	3	3	15
マルイ眼科													
日赤病院													
川俣済生会	2												2
実数 計	3	0	3	4	0	0	0	1	0	2	3	3	19